

- 鳥取県 -

国道178号「岩美道路」整備におけるハード・ソフト両輪の取組み

1. はじめに

国道178号「岩美道路」は、地域高規格道路「鳥取豊岡宮津自動車道（山陰近畿自動車道）」の一部を構成する延長L=5.7kmの自動車専用道路である。この岩美道路は平成21年3月に新規事業化され、平成28年3月には岩美IC～浦富IC間（L=1.9km）が開通し、現在、残り区間L=3.8km（浦富IC～東浜IC間）の整備を鳥取県岩美町内で進めている（写真-1）。

本稿では、全線開通に向けて大詰めを迎える岩美道路の整備状況とともに、そのハード整備のフィールドを活用したソフト事業の取組みを紹介する。

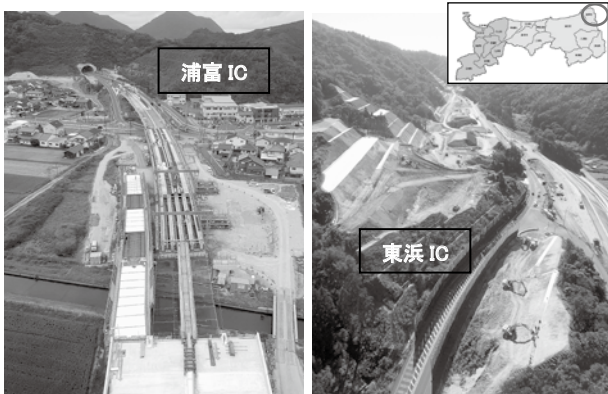


写真-1 工事が進む浦富高架橋（左）と東浜IC付近（右）の状況

2. ソフト事業の積極的な展開

現在、牧谷トンネルでは年末の貫通に向けて掘削工事が進み、浦富高架橋では、橋桁の架設工事が完了間近である。また、ICTを活用した施工も積極的に行われており、土木事業のPRなど様々なソフト事業を展開する絶好の機会と考えた。

まず、若い世代も含め幅広く岩美道路を知ってもらおうとSNS（Instagramやfacebook）を活用し、日々の整備状況の発信を始めた。また、以前より発行していた地元向けの広報チラシ「岩美道路だより」に加えて、隣接する兵庫県の浜坂道路Ⅱ期と連携した広報チラシ「岩美道路News&浜坂道路Ⅱ期News」を作成することとした。これらは、地元住民へのPRのみならず、広域的なPRにより開通後の観光客増に繋がればという期待も込めての取組みである。

次に、地方の土木業界の担い手不足の解決に繋が

ればという思いから、地元小学校を対象に道路に関する出前講座や各工事の現地見学会（写真-2）をはじめ、土木の魅力体感イベント（写真-3）など様々なメニューを企画し、実施し始めた。これらの取組みを通じて、道路事業など土木への興味のほか、地元への愛着に繋がることを期待したい。

また、取組みの効果を持続させる工夫として、オリジナルカード（写真-3）も製作・配布している。これは、開通後の取組みにも繋げられるものであり、今後も工夫した仕掛けを考えていきたい。



写真-2 牧谷トンネル現地見学会



写真-3 浦富高架橋お絵描きイベントとオリジナルカード

3. おわりに

紹介したハード・ソフト両輪の取組みを通じた学校関係者やマスコミの反響などから、改めてその重要性を感じている。今後も地道な取組みを継続し、その相乗効果によりハード整備の効果を最大限発揮させ、持続可能なものにするのが重要である。

鳥取県 鳥取県土整備事務所
山陰道・岩美道路推進室 はやししょうご 林 照悟